

事務局報告

第92回(2023年度第1回)幹事会 議事要録

日時: 2023年1月8日(日) 15:00 ~ 18:00

場所: Zoomによるオンライン会議

出席者: 能城会長, 村上庶務幹事, 上條庶務副幹事, 西内広報幹事, 真邊行事委員長, 工藤編集委員長, 藤井自然史学会連合担当

報告事項

1. 村上庶務幹事より会員動向および会費納入状況: 2022年11月30日現在の会員数が報告された(名誉会員2名, 賛助会員1社, 一般会員244名, シニア会員31名, 学生会員26名, 団体会員4団体)。2022年9月1日からの増減は, 学生会員からの区分変更(学生会員1名), 入会者1名(学生会員1名), 退会者5名(一般会員4名, シニア会員1名)であった。会費納入状況について, 長期未納者には幹事より会費納入を働きかけることとした。
2. 植生史研究の編集状況について: 工藤編集委員長より第32巻1号が12月に刊行されたことが報告された。第32巻2号は審査中で引き続き投稿も呼びかけることにした。
3. 第51回談話会の準備状況について: 真邊行事委員長より年度内で葉化石の同定講習会を行うべく, 国立科学博物館への打診について報告されたほか, 実施困難な場合に備えて, 山梨での現地開催に向けても調整が進められていることが報告された。
4. 第38回大会(鹿児島)について: 真邊行事委員長より鹿児島大学での開催について日程(2023年12月2・3日), 大会実行委員会委員(実行委員長: 吉田明弘氏), 大会内容案, 開催形式について報告された。日本花粉学会との合同大会として行い, 開催形式は基本的に対面形式とし, オンライン参加者は映像配信を主とすることが報告された。
5. 日本学術会議からのアンケートへの回答案について: 村上庶務幹事より回答案が報告された。
6. 博物館法改正に伴う自然史学会連合から声明, 要望を出す件について: 藤井自然史学会連合担当より参加学協会内における意見のとりまとめができなかったため, 発出を断念したことが報告された。

審議事項

1. 今後の編集体制の検討: 次期会計・庶務幹事への就任者が内定し, 編集委員長については引き続き審議することにした。

2. ML投稿記事掲載について(広報): 情報告知などの学会MLの運用方法について, 月末でまとめて, 一括配信する案が提案された。大会・談話会に関する4回の情報送付を除く, 情報告知は8回を均等に割り振ったスケジュールで配信し, それ以外の急な情報はHPに掲載することが了承された。

3. 学会HP(植生史研究PDFの掲載, フォロワー)について(広報): 現在, J-STAGEとHP両方に植生史研究PDFを掲載しているが, 今後HPではJ-STAGEにリンクを貼り, J-STAGEに掲載しない情報のみを掲載する点が了承された。また, フォロワーの機能について: 個人情報保護の観点から廃止する旨が了承された。なお, 積極的に利用されている方については個別連絡する。

4. 奨励賞の方針について: 奨励賞に関する内規改正は行わず, 審査委員会においては, 内規第10項に従い, 該当なしをできるだけ避けるよう申し送りする。

5. 内規改正の方法について: 内規改正の方法について項目によって承認手続きが異なる点について, 内規を整理し, 特に賞関係については統一し, 2024年度評議員会・総会に諮ることとした。

6. 会員名簿の発行形態と作成手順について: 作成手順について, 名簿調査票の項目を確認し, 会員名簿に掲載する項目は会員に選択してもらうことが了承された。発行形態については冊子体を廃止し, オンライン公開とし, ①HP上での会員限定公開のマイページを作る, ②PDFにパスワードをかけて, 会員のみにパスワードを送付する, の2案が提案され, それぞれ見積を取るようになった。

7. 会長・評議員選挙について: 会員数の減少に伴い, 選挙公示日時点の会員の人数を確認した上で, その数に応じて評議員の定数を4から3に変更することが了承された。選挙管理委員長の選出と選挙日程の調整, 開票会場の候補について上條庶務副幹事が検討し, メールで諮ることとした。

第93回(2023年度第2回)幹事会 議事要録

日時: 2023年4月13日(木) 18:00 ~ 19:00

場所: Zoomによるオンライン会議

出席者: 能城会長, 村上庶務幹事, 上條庶務副幹事, 西内広報幹事, 真邊行事委員長, 浦行事副委員長, 工藤編集委員長, 藤井自然史学会連合担当

報告事項

1. 会員動向: 2023年3月31日現在の会員数が報告さ

れた(名誉会員 2 名, 賛助会員 1 社, 一般会員 241 名, シニア会員 30 名, 学生会員 22 名, 団体会員 4 団体)。2022 年 12 月 1 日からの増減は, 入会者 3 名(一般会員 2 名, 学生会員 1 名), 退会者 8 名(一般会員 7 名, 学生会員 1 名), 逝去 1 名であった。山川会計幹事より会費納入状況について, 会費の納付率はおおむね 7~8 割で, とくにシニア会員の納付率が高いこと, 未納者にはメール送付時に呼びかけていく必要があることが報告された。

2. 植生史研究の編集状況について: 工藤編集委員長より第 32 巻 2 号が刊行に向けて準備中であることが報告された。
3. 第 38 回大会および第 51 回談話会の準備状況について: 真邊行事委員長より大会準備状況について報告され, 来月には会員に日程等についての大会第一報を送る準備を進めていくことが報告された。第 51 回談話会として大会後に巡検を行うことが報告された。
4. 会員名簿作成の準備状況について: 村上庶務幹事より今年度作成予定の名簿の発行方式について報告があり, 事務局からの見積を比較した結果, PDF にパスワードをかけて学会ホームページ上に置き, 会員のみにパスワードを会誌発送時に同封する方式とすることが確認された。
5. 会長および評議員選挙の準備状況について: 5 月 15 日付で公示し, 選挙管理委員会(高瀬克範選挙管理委員長)により行うことが報告された。

審議事項

1. 今後の編集体制の検討: 7 月に選挙結果が出たのち, 次期会長のもとで編集体制について引き続き審議することとした。
2. 植生史研究バックナンバーの価格改定について: 植生史研究第 29 巻第 1 号(2021 年 2 月発行)が発行から 2 年経過したため価格を改定して 1 冊 500 円で販売し, ホームページ上で PDF を公開することについて, 承認された。
3. 次号ニュースレターについて: 次号ニュースレター(No. 59)の内容について審議し, 第 38 回大会案内の第 1 報と第 51 回談話会の案内, シニア会員の案内, 会費納付の案内, 国際学会の参加費助成アナウンスを掲載することとした。

第 94 回(2023 年度第 3 回)幹事会(新旧合同)

議事要録

日時: 2023 年 10 月 11 日(水) 18:00~21:00

場所: Zoom によるオンライン会議

出席者: 能城会長, 百原新会長, 村上庶務幹事, 上條新庶

務幹事, 山川会計幹事, 佐々木新会計幹事, 西内広報幹事, 渋谷新広報幹事, 真邊行事委員長, 浦新行事委員長, 工藤編集委員長, 吉田新編集委員長, 大山新編集副委員長, 藤井自然史学会連合担当

報告事項

1. 会員動向(庶務): 2023 年 9 月 1 日現在の会員数が報告された(名誉会員 2 名, 賛助会員 1 社, 一般会員 240 名, シニア会員 30 名, 学生会員 21 名, 団体会員 3 団体)であった。2023 年 4 月 1 日からの増減は, 退会者(一般会員 2 名, 団体会員 1 団体), 学生会員からの区分変更 1 名, 正会員への区分変更 1 名であった。
2. 会費納入状況: 会費納入状況が報告された。
3. 植生史研究の編集状況について: 工藤編集委員長より第 32 巻 2 号が原稿の募集中であることが報告された。
4. 第 38 回大会(鹿児島), 第 51 回談話会について: 真邊行事委員長より対面方式にて行う第 38 回鹿児島大会の準備について報告され, 日本花粉学会との共催で行うにあたっての調整の状況や, 第 51 回談話会として行う鹿児島巡検の準備状況が報告された。
5. 会長・評議員選挙結果について: 上條第 14 期庶務幹事より 2023 年 6 月 30 日の第 14 期会長選挙・評議員選挙の結果が報告された。投票者総数 82 人(選挙権者総数 293 人, 投票率 28.0%)。会長百原 新氏, 評議員江口誠一氏, 佐々木由香氏, 那須浩郎氏が当選。なお, 投票率は例年よりも上昇した。
6. 第 14 期役員について: 村上庶務幹事より下記, 第 14 期役員が報告された。なお, 行事副委員長については, 新旧委員長で調整中と報告された。
会長: 百原 新, 評議員: 江口誠一, 佐々木由香, 那須浩郎, 幹事: 上條信彦(庶務), 佐々木尚子(会計), 渋谷綾子(広報・渉外), 編集委員会: 吉田明弘(委員長), 大山幹成(副委員長), 行事委員会: 浦 蓉子(委員長), 自然史学会連合担当: 藤井伸二(2024 年 3 月まで)
7. 第 7 回論文賞および第 6 回学会賞について: 村上庶務幹事より学会賞は 4 月末日の締切を過ぎても応募がなかったため, 該当なしとなった。また, 第 7 回論文賞を次の論文に授与することが決定された。
百原 新・工藤雄一郎・三宅 尚・中村俊夫・門叶冬樹・塚腰 実: Diversity of temperate flora at the Tado site, central Japan, during the last glacial stage, reconstructed from the Dr. Shigeru Miki collection (三木茂博士採集の三重県多度産標本から復元した最終氷期の温帯性フロラの多様性)(第 29 巻第 1 号: 53-68)
8. 名簿発行準備状況について: 村上庶務幹事より会費請求書類とともに発行案内(フォームへの入力案内)を百

原会長名で発送する点と、名簿データ公開方式について、会員ページを設けて掲載し、その際に名簿にロックをかけ、会員にパスワードを通知することにする事が確認された。

9. 学会運営改善の経過について：村上庶務幹事より目標③：経費節減の検討のうち「会員名簿の電子媒体化を検討する」に係り上記 8. 名簿の電子媒体化を実施中であることが報告された。
10. ML の発行方式について：西内広報幹事より現在不定期発行中の ML を、大会・談話会などの告知以外をできるだけ定期的に発行する旨が報告され、現在 ML は 12 回分で契約しているが、大会・談話会などの告知分を含め、次回の学会事務局との契約更新より最大 16 回分確保していくこととなった。

審議事項

1. 次号ニュースレターの内容について：現在作成中であり、会費の請求・名簿の連絡と合わせて、大会案内とともに郵送する。大会最終報は 11 月中旬に発行することが了承された。
2. 第 52 回談話会・第 39 回大会について：第 52 回談話会は山梨または国立科学博物館で、第 39 回大会を学習院女子大学で調整中である旨が報告され、了承された。
3. 奨励賞選考にあたっての申し送りについて：奨励賞は若手育成の面を考慮して、今後の奨励賞審査にあたっては「該当者無し」とは極力しないことを堅持するよう、第 13 期幹事会より申し入れることが了承された。
4. 内規の改正（内規改正手続）について：改正手続きについて、顕彰に関する内規は評議員会で、シニア会員・賛助会員に関する内規は総会で改正を承認する方式とすることを総会で協議することとし、内規についてその公開を含めて、他学会例を参照するなど内容を精査することを申し送りすることにした。
5. IPC/IOPC2024 への学会参加費補助について：参加申し込みの時期が 10 月のため、10 月の ML で告知することにした。2 件程度を限度に次回大会で補助を実施する。金額は最近の物価上昇に合わせ、例年 1 件 5 万円としているが、助成金額の引き上げを会計で調整することが承認された。また助成対象者は『植生史研究』に研究内容について寄稿するなどの条件を付したほうが良いという意見が出された。
6. バックナンバーの在庫管理と HP での表示について：現在、10 箱分近いバックナンバー在庫があるため、総会に諮ったうえで永久保存分各 2 冊とし、その他については機関への寄贈や大会での配付を実施し、将来的には J-Stage 掲載分から処分していく方向で進めることが了承

された。

7. 学会関係資料のアーカイブ化について：紙ベースで伝承されてきた書類を仕分けし、重要性を複数の立場から検討したうえで保存期間・保存方法を検討して、個人情報を含むものはシュレッダーにかけるなど留意のうえで適切に廃棄を進める方向で評議員会・総会に諮ることが了承された。なお、会員名簿など会の歴史や会員の顕彰に関わる一次資料を「永久保存」にしたほうがよいと意見が出された。

第 95 回（2023 年度第 4 回）幹事会（新旧合同）

議事要録

日時：2023 年 12 月 1 日（金）15:00 ～ 18:00

場所：鹿児島大学法文学部 1 号館 2F、第 6 演習室

出席者：第 13 期：能城会長、村上庶務幹事、山川会計幹事、真邊行事委員長

第 14 期：百原会長、上條庶務幹事、佐々木会計幹事、渋谷広報幹事、浦行事委員長

報告事項

1. 上條第 14 期庶務幹事より総会議長推薦者について志知幸治氏を幹事会として推薦することが了承された。
2. 山川第 13 期会計幹事より会費の長期滞納による会員の除名について、8 名が該当する旨が報告され、納入を催促していくことが確認された。

審議事項

1. 評議員会・総会資料の読み合わせを行いつつ、以下 2 ～ 6 が審議された。
2. 評議員会・総会資料「別途会計について」：収入が合わない現状と経緯が山川第 13 期会計幹事より説明された後、佐々木第 14 期会計幹事よりスライドを用いてその原因について補足説明がなされた。佐々木幹事より原因究明のための WG の立ち上げが起案され、これが了承された。
3. 広報・渉外について：学会メーリングリストを使った情報配信を、各月ペースで行っていくことが確認された。
4. 会計監査について：井上 淳氏を推薦することが了承された。
5. 内規の改正について：確認したところ、内規の決定日と施行日について、各内規によって不統一のため、表現を統一していく方向となった。
6. 第 39 回日本植生史学会大会について：2024 年 12 月に学習院女子大学（東京都）において開催することとなった。
7. 2024 年度予算案について：国際会議への若手助成の

応募に関し、近年の物価高対応や応募意欲増進のため、助成金額を増やし1名14万円を計上することにし、これが了承された。

2024年度評議員会 議事要録

日時：2023年12月1日（金）19:00～21:00

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：江口誠一、那須浩郎、佐々木由香 評議員

第13期：能城会長、村上庶務幹事、山川会計幹事

第14期：百原会長、上條庶務幹事、佐々木会計幹事、渋谷広報・渉外幹事、浦行事委員長

報告事項

1. 2023年度の事業報告および決算報告・会計監査報告（総会資料）を承認した。主な案件は以下の通りである。別途会計について、収入が合わない現状と経緯が、山川第13期会計幹事より説明された後、佐々木第14期会計幹事よりスライドを用いてその要因について補足説明がなされた。
2. 2024年度事業計画の幹事会案を審議し、承認した。主な案件は以下の通りである。
 - 1) 広報について、学会メーリングリストを使った情報配信を、各月ペースで行っていくことが確認された。
 - 2) 助成公募については積極的な応募がなされるよう広報を強化することが確認された。
 - 3) 第13回奨励賞審査の結果が該当者なしとなっているため、積極的な応募がなされるよう推薦人への働きかけ強化を進めていくことが確認された。
 - 4) 賞関係の内規の改正は、総会ではなく評議員会での承認で行うことができるように改正し、会員の特典や広告掲載に関わる内規は総会の承認を得るものとしたい。さらに、従来の内規では手続きに関する条文が不統一のため、表現を統一することが報告された。
 - 5) 幹事会より別途会計に関する原因究明のためのWGの立ち上げが起案され、これが了承された。
 - 6) 2024年度予算案について、国際会議への若手助成の応募に関し、近年の物価高対応や応募意欲増進のため、助成金額を増やし1名14万円を計上することにし、これが了承された。

2023年度総会議事要録

日時：2023年12月2日（土）16:50～17:50

場所：鹿児島大学稲盛会館

議長：志知幸治

1. 報告事項

1. 2023年度事業報告

1-1. 庶務

- 1) 会員動向（2023年9月30日現在）：名誉会員2名、賛助会員1社、一般会員239名、シニア会員30名、学生会員19名、団体会員3団体
- 2) 前年度比：名誉会員±0名、賛助会員±0社、一般会員－11名（入会＋2名、シニア会員への種別変更－1名、学生会員からの種別変更＋3名、退会－15名）、シニア会員±0名（退会－1名一般会員からの種別変更＋1名）、学生会員－5名（入会＋1名、退会－3名、一般会員への種別変更－3名）、団体会員－1団体
- 3) シニア会員を募集し、応募のあった1名の会員について承認した。
- 4) 第14期会長選挙および評議員選挙を実施した（選挙管理委員長 高瀬克範）。第14期会長に百原 新氏、第14期評議員に江口誠一氏、佐々木由香氏、那須浩郎氏が選出された。
- 5) 第14期役員の編成を行い、庶務幹事を上條信彦氏に、会計幹事を佐々木尚子氏に、広報・渉外幹事を渋谷綾子氏に、編集委員長を吉田明弘氏に、同副委員長を大山幹成氏に、行事委員長を浦 蓉子氏に、自然史学会連合担当幹事は藤井伸二氏にそれぞれ委嘱した。
- 6) 2023年度評議員会を2022年9月28日にZoomによるオンライン方式にて、総会を10月2日に奈良文化財研究所平城宮跡資料館：奈良市でTeamsによるハイブリッド方式にて開催した。
- 7) 幹事会を2023年1月8日、4月13日、10月11日に、いずれもZoomによるオンライン方式にて開催した。
- 8) 2023年度策定の学会運営改善案をうけて、学会運営の改善を進めた。
- 9) 会員名簿の発行方式をPDFとし、PDFにパスワードをかけて学会ホームページ上に置き、会員のみにパスワードを会誌発送時に同封する方式とすることにした。
- 10) 会員名簿を編集・発行した。

1-2. 広報・渉外

- 1) ニュースレター59号を編集、刊行した。
- 2) メーリングリストによる情報配信を適宜行った。
- 3) ホームページの保守管理および更新を行った。
- 4) 会誌「植生史研究」第29巻2号までを学会ホームページにて公開した。
- 5) フォロワーの機能について個人情報保護の観点から廃止することにした。

2023 年度決算報告 (2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日)

収 入	2023 年度予算	2023 年度決算	
一般・シニア・学生会員会費	1,662,000	1,671,000	一般会員 6,000 円× 252 件、シニア会員 3,000 円× 32 件、学生会員 3,000 円× 21 件
団体・賛助会員会費	52,000	52,000	団体会員 8,000 円× 4 件、賛助会員 20,000 円× 1 件
会誌売上 (特別号含む)	2,000	3,400	2 冊 (送料 400 円込み)
利息	10	39	4 月 19 円 10 月 20 円
大会準備金余剰金	0	27,000	第 37 回奈良大会分
学術著作権	90,000	108,764	
小計	1,806,010	1,862,203	
前年度繰越金	5,117,180	5,117,180	
合計	6,923,190	6,979,383	

支 出

学会事務委託経費			
基本業務委託	450,000	434,984	会員管理 231,840 円、受付業務 120,000 円、バックナンバー保管料 3,600 円等
発送等手数料	100,000	172,363	学会誌発送手数料 32,415 円、会費請求 2 回 121,581 円、メーリングリスト管理配信 15,125 円等
委託業務経費実費分			
郵送費	70,000	71,870	会誌郵送 62,904 円、宅配メール便 8,966 円
印刷費	10,000	0	ニューズレター 1 回分：印刷なし
封筒・封筒印刷費	25,000	45,100	角 2(1000 部)
コピー代	10,000	21,368	
名簿作成費			
作業費	65,000	77,000	会員 306 名分調査票作成・データ修正・編集等一式
名簿編集	55,000		
選挙費 (会長・評議員)			
投票用紙製作・発送費	155,000	119,958	会員 288 名分 (製作 300 部)
会誌印刷費			
会誌印刷費	1,200,000	835,450	第 31 巻 1-2 号 542,850 円、第 32 巻 1 号 292,600 円
大会費			
2024 年度大会準備金	100,000	100,000	2024 年度鹿児島大会準備金
事務経費			
郵送費	3,000	8,780	会誌移動郵送費等
一般事務経費	3,000	4,950	文房具、銀行振込み手数料等
広報・HP 管理	10,000	9,550	サーバー 5,238 円/ドメイン 4,312 円契約料
J-STAGE 登録	5,000	0	入力作業アルバイト代 (500 円 / 件) 等：担当会員が入力
幹事会など会議等			
旅費	25,000	0	会計監査旅費、自然史学会連合出張旅費：オンライン会議のため支出なし
自然史学会連合分担金	20,000	20,000	20,000 円 / 年
行事費			
オンライン経費	5,000	0	(オンライン研修等 Zoom 契約料)：対面式で実施
講師謝金	30,000	0	談話会・巡検等：花粉学会と共催開催の奈良大会運営費で支出
表彰関係			
学会賞副賞	30,000	0	該当者なし
賞受賞者懇親会招待	0	0	該当者なし
優秀発表賞関連経費	60,000	0	30,000 円× 2 件：投稿者なし
国際会議等への参加助成	50,000	0	50,000 円× 1 件：助成申請なし
予備費	100,000	100,000	2024 年度鹿児島大会貸付金として支出
合計	2,581,000	2,021,373	
次年度繰越金	4,342,190	4,958,010	

別途会計	決算額		次年度繰越金
	収入	支出	
口座移行に伴う過不足金	809,472	0	809,472

1-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」第 31 巻 1・2 号 (合併号)、第 32 巻 1 号を編集、刊行した。
- 2) 会誌「植生史研究」第 29 巻 2 号までを J-STAGE にて公開した。

1-4. 行事

- 1) 第 37 回日本植生史学会大会を 2022 年 10 月 1 日～10 月 3 日に奈良文化財研究所平城宮跡資料館 (奈良県奈良市) を日本花粉学会第 63 回大会と合同で Teams によるハイブリッド方式にて開催した。参加者は公開シン

ポジウム 75 名 (会員のみの), 一般研究発表 17 名, ポスター発表 6 名であった。大会実行委員長: 星野安治, 大会実行委員: 山崎 健, 庄田慎矢, 西原和代, 浦 蓉子, 上中央子, 前田仁暉, 真邊 彩, 池田浩己, 伊藤由紀子, 林 竜馬。

2) 第 50 回談話会を 2022 年 10 月 3 日に開催した。テーマは「春日山原始林」とし, 参加者は約 25 名であった。案内人: 前迫ゆり, 世話人: 上中央子, 星野安治, 浦 蓉子, 真邊 彩, 林 竜馬。

3) 第 38 回日本植生史学会大会を, 日本花粉学会第 64 回大会と合同で, 2023 年 12 月 2 日・3 日に鹿児島大学 (鹿児島市) にて開催するべく準備した。

2. 2023 年度決算報告, 会計監査報告 (別紙決算案), 別途会計について

2023 年度の決算が報告され, 半田久美子会計監査より適正に処理されていたことが報告された。別途会計について収入が合わない現状と経緯を, 山川第 13 期会計幹事が説明した後, 佐々木第 14 期会計幹事よりスライドを用いてその要因について補足説明がなされた。

3. 第 7 回論文賞および第 6 回学会賞

第 6 回学会賞は 4 月末日の締切を過ぎても応募がなかったため, 該当なしとなった。また, 日本植生史学会表彰規程に則って, 第 7 回論文賞審査委員会 (中山誠二委員長, 百原 新委員, 江口誠一委員, 那須浩郎委員, 矢部 淳委員) を設置し, 審査を行った。その結果, 審査委員会は第 7 回日本植生史学会論文賞を, 「植生史研究」第 29 巻 1 号の原著論文「Diversity of temperate flora at the Tado site, central Japan, during the last glacial stage, reconstructed from the Dr. Shigeru Miki collection (三木茂博士採集の三重県多度産標本から復元した最終氷期の温帯性フロアの多様性)」(百原 新・工藤雄一郎・三宅 尚・中村俊夫・門叶冬樹・塚腰 実) に決定した。

授賞理由: 本論文は, 博物館に収蔵されているコレクションを用いて, 年代測定, 大型植物遺体分析, 花粉分析を組み合わせて再検討を行い, 最終氷期の多度川流域の植生を明らかにした。特に標本の多くを初めて図示し, 同定の根拠を含めた論考を英文で掲載している点で, 国際的な研究論文として価値が高い。また, すでに収蔵されている博物館標本の有効性を示した点も評価される。以上の点から, 当論文は植生史研究に大きく貢献するものとして, 論文賞候補に値する。

4. 第 8 回優秀発表賞

日本植生史学会表彰規程に則って, 第 8 回優秀発表賞審

査委員会 (江口誠一委員長, 能城修一委員, 那須浩郎委員, 百原 新委員, 矢部 淳委員, 星野安治委員) を設置し, 審査を行った。その結果, 第 37 回大会の第 8 回日本植生史学会優秀発表賞は次の 2 件の発表に決定した。

- 1) 早川万穂・池田雅志・沢田 健・高嶋礼詩・西 弘嗣・中村英人「北海道苫前地域・蝦夷層群羽幌川層における花粉分析に基づく後期白亜紀の古植生変動復元」
- 2) 池田 駿・百原 新「本州中部の上部中新統より産する絶滅属 *Protosequoia* の分類の再検討」

5. 会員の除名

会則第 4 条 h に則り, 会費の長期滞納により 7 名の会員について, 2023 年 12 月 15 日までに納入がない場合は除名することとした。

6. 自然史学会連合活動報告

- 1) 第 3 回運営委員会: 2022 年 12 月 4 日開催
- 2) 2022 年度自然史学会連合総会: 2022 年 12 月 4 日 (オンライン開催)
- 3) 国際生物科学連合総会 (34th IUBS GA, 中央大学, 3 月 9 日~12 日開催予定) の後援
- 4) 第 4 回運営委員会: 2023 年 3 月 27 日
- 5) 第 1 回運営委員会: 2023 年 6 月 4 日
- 6) 2023 年度自然史学会連合総会: 2023 年 6 月 4 日 (オンライン開催)
- 7) 第 1 回運営委員会: 2023 年 11 月 16 日
- 8) 2nd Asian Palaeontological Congress (APC2, 第 2 回アジア古生物学会議, 8 月, 東大本郷キャンパス開催) の後援
- 9) 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会「水族館とは? 日本の水族館を考える」(12 月 4 日・5 日開催) の後援

II. 審議事項

1. 2024 年度事業計画

以下の点が, 賛成多数で承認された。

1-1. 庶務

- 1) 2024 年度評議員会を 2023 年 12 月 1 日に Zoom によるオンライン方式にて, 総会を 2023 年 12 月 2 日に鹿児島大学にて開催する。
- 2) 第 9 回優秀発表賞の選定を行う。
- 3) 第 14 回奨励賞の選定を行う。
- 4) 幹事会を 3 回程度開催する。
- 5) 学会事務委託の契約更新を行う。

2024 年度予算案 (2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日)

収 入	2024 年度予算	
一般・シニア・学生会員会費	1,587,000	一般会員 6,000 円× 239 名, シニア会員 3,000 円× 31 名, 学生会員 3,000 円× 20 名
団体・賛助会員会費	44,000	団体会員 8,000 円× 3 団体, 賛助会員 20,000 円× 1 社
会誌売上 (特別号含む)	3,000	2023 年度 3,000 円, 2022 年度 6,600 円
利息	30	
大会準備金余剰金	100,000	2023 年度決算の予備費から支出された貸付返金分
学術著作権	100,000	2023 年度 108,764 円, 2022 年度 103,982 円
小計	1,834,030	
前年度繰越金	4,958,010	
合計	6,792,040	

支 出		
学会事務委託経費		
基本業務委託	410,000	会員管理 (700 円× 316 件), 受付業務 120,000 円等
発送等手数料	175,000	会費請求 2 回 125,000 円, メーリングリスト管理配信 16,000 円等
委託業務経費実費分		
郵送費	120,000	会誌郵送 100,000 円, 宅配メール便ニュースレター 1 回分 10,000 円等
ニュースレター印刷費	10,000	ニュースレター 1 回分
封筒・封筒印刷費	100,000	長 3(500 部)・角 8 (1000 部)・振込取扱票 (500 部) 等
コピー代	30,000	
会誌印刷費		
会誌印刷費	1,050,000	第 32 巻 2 号, 第 33 巻 1 号, 2 号
大会費		
2025 年度大会準備金	100,000	
2025 年度大会貸付金	100,000	
事務経費		
郵送費	10,000	会誌等移動郵送費
一般事務経費	3,000	文房具, 銀行振込み手数料等
広報・HP 管理	10,000	サーバー／ドメイン契約料, HP サイト管理等
J-STAGE	5,000	入力作業アルバイト代 (500 円 / 件) 等
別途会計解消 WG	50,000	会計作業補助アルバイト代
幹事会など会議等		
旅費	25,000	会計監査旅費, 自然史学会連合出張旅費
自然史学会連合分担金		
	20,000	20,000 円 / 年
行事費		
オンライン経費	5,000	オンライン研修等, Zoom 契約料
講師謝金	30,000	談話会・巡検等
表彰関係		
奨励賞副賞	30,000	
賞受賞者懇親会招待	10,000	鹿児島大会懇親会 (5,000 円× 2 名)
優秀発表賞関連経費	60,000	30,000 円× 2 件
国際会議等への参加助成	140,000	140,000 円× 1 件
予備費	100,000	
合計	2,593,000	
次年度繰越金	4,199,040	

別途会計	予算額	
	収入	支出
口座移行に伴う過不足金	809,472	0
		809,472

1-2. 広報・渉外

- 1) メーリングリストによる情報発信を適宜行う。
- 2) ニュースレターを編集・刊行し, 配信はメーリングリストを中心に行う。
- 3) ホームページの保守管理および更新を行う。
- 4) 会誌「植生史研究」PDF を学会ホームページにて公開する。

1-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」を編集し, 第 32 巻 2 号, 第 33 巻 1 号, 2 号を刊行する。
- 2) 会誌「植生史研究」PDF を J-Stage にて公開する。

1-4. 行事

- 1) 第 38 回日本植生史学会大会を 2023 年 12 月 2 日・3 日に鹿児島大学 (鹿児島市) にて日本花粉学会第 64

回大会と合同で開催する。大会実行委員長：吉田明弘，大会実行委員：中村直子，大西智和，浦 蓉子，真邊彩，三宅 尚，林 竜馬。

2) 第 51 回談話会を 2023 年 12 月 4 日に指宿市で開催する。テーマは『南薩の火山と植生』。

3) 第 39 回日本植生史学会大会を 2024 年 12 月に学習院女子大学（東京都）において開催するべく準備する。

4) 第 52 回談話会（2024 年度時期未定）を山梨県または国立科学博物館，第 53 回談話会（2024 年度時期未定）を対面方式にて開催するべく準備する。

1-5. 会計

別途会計について複数人で WG を組織して検討を行う。

2. 会計監査の選出

2024-2025 年度会計監査を井上 淳氏が担当することが確認された。

3. 内規の改正

以下について，賛成多数で承認された。賞関係の内規の改正は，総会ではなく評議員会での承認で行うことができるように改正し，会員の特典や広告掲載に関わる内規は総会の承認を得るものとしたい。さらに，従来の内規では手続きに関する条文が不統一のため，以下のように表現を統一する。

1) 改正手続きの記載がない内規（「学会賞に関する内規」および「論文賞に関する内規」）

「本内規の改正は評議員会の承認を得るものとする。」を追加。

2) 「奨励賞に関する内規」および「優秀発表賞に関する内規」
「本内規の改正は総会の承認を得るものとする。」の条文を総会→評議員会に修正。

3) 「賛助会員に関する内規」，「広告の掲載に関する内規」
「本内規の改正は総会の承認を得るものとする。」を追加。

4. バックナンバーの在庫管理と HP での表示について

以下について，賛成多数で承認された。バックナンバー在庫について，永久保存分各 2 冊とし，その他については機関への寄贈や大会での配付を実施などをして有効活用を図りつつ，在庫数を減らす。またこれに伴い，HP での在庫数の表示を無くす方向に改める。

5. 学会関係資料のアーカイブ化について

以下について，賛成多数で承認された。紙書類を仕分けし，会員名簿や学術刊行物の登録など会の歴史や会員の顕彰に関わる一次資料を「永久保存」または「デジタル化し

て保存」にするなど，重要性を複数の立場から検討したうえで保存期間・保存方法を検討し，個人情報を含むものはシュレッダーで裁断するなど，留意のうえで適切に廃棄を進める。

6. 2024 年度予算案

2024 年度予算案について賛成多数で承認された。

7. その他

高原会員より，国際会議への若手会員への参加助成の増額について賛同するとともに IPC/IOPC の応募が始まっていることから，速やかに進めてほしい旨の希望があった。

会員動向（2022 年 10 月～2024 年 1 月）

新入会員（敬称略）

水谷友紀（一般）

水村直人（一般）鳥取県地域づくり推進部文化財局

佐藤駿輝（学生）中央大学

岡本拓樹（学生）千葉大学大学院

白杵達也（学生）大阪公立大学大学院

田畑和嵩（学生）千葉大学

林 忻（学生）東京学芸大学院

渡邊小友和（学生）千葉大学

山中俊樹（一般）都城市教育委員会

金子悠人（一般）石岡市教育委員会

小泉翔太（一般）奈良県立橿原考古学研究所

松崎大嗣（一般）指宿市教育委員会

大宮航汰（学生）福島大学

酒井和也（学生）鹿児島大学

坂本 匠（学生）京都大学大学院

退会会員（敬称略）

池田 博，岩永哲夫，内山 隆，遠藤邦彦，王 雨晴（学生），大木さおり，小川浩一，勝山百合，小島夏彦，小林加奈，近藤鍊三，下野真理子，田中徳久，千田寛之，藤間 剛，中静 透，長谷義隆，南木陸彦，Mechtild Mertz，森 勇一，山口 徹，山本浩久，湯本貴和，長嶺 勝，中山悠那（学生），高嶋 恵（学生），富田香音（学生），岐阜県立森林文化アカデミー（団体会員），全国大学生活協同組合連合会（団体会員）

第 14 期日本植生史学会役員

（任期：2023 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）

会 長：百原 新

評議員：江口誠一，佐々木由香，那須浩郎

会計監査：井上 淳

幹事：上條信彦（庶務）、佐々木尚子（会計）、渋谷綾子（広報・渉外）
編集委員会：吉田明弘（委員長）、大山幹成（副委員長）
行事委員会：浦 蓉子（委員長）、柳原麻子（副委員長）
自然史学会連合担当：藤井伸二

各種連絡先

入会・異動・退会・購読の申し込み
（バックナンバー購入、メーリングリストアドレス登録・変更、メーリングリストへの投稿記事）
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12
新宿ラムダックスビル
（株）春恒社 学会事業部内 日本植生史学会事務局
TEL 03-5291-6231 FAX 03-5291-2176
E-Mail: hisbot-office01@shunkosha.com

その他の連絡先は、以下の通りです。
連絡・問い合わせ、転載許可申請、シニア会員申請
庶務幹事 上條信彦
〒036-8560 弘前市文京町 1 番地
弘前大学人文社会科学部
Tel：0172-39-3273 Fax：0172-39-3273
E-mail：hbmain@hisbot.jp

雑誌投稿に関する問い合わせ、企業広告送付先
編集委員長 吉田明弘
E-mail：hbjournal@hisbot.jp

ホームページや企業広告に関する問い合わせ
広報・渉外幹事 渋谷綾子
E-mail：hbnews@hisbot.jp

査読者への謝辞

植生史研究第 32 巻に投稿された論文等は下記の方々に査読していただきました。記して御礼申し上げます。

井上 淳	能城修一	矢部 淳	吉田明弘
西内李佳	三宅 尚	山川千代美	米林 伸